都道府県が設定している要防除水準（野菜）

（2025年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
かんしょ	イモゾウムシ	植付後７５日～１０５日（１５日おき）	見取り調査、１圃場あたり５０茎	被害茎率５％以上	即時	被害許容水準を、植え付け後７５日で被害塊根率１３．６％とした場合	沖縄県
かんしょ	ハスモンヨトウ	８月下旬	見取り調査	幼虫１０頭／平方メートル以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
さといも	ハスモンヨトウ	随時	見取り調査	幼虫３頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
ごぼう	キタネコブセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	２～３頭以上	播種前		北海道
ごぼう	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	５頭以上	播種前		北海道
ごぼう	黒条病	畝間が茎葉で隠れるようになったら観察を開始	５０株程度	１株以上（初発を確認したら）	即時	効率的防除対策の開始目安	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
だいこん	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	１０頭以上	播種前		北海道
だいこん	キタネグサレセンチュウ	作付前	１圃場あたり任意の土壌３０ｇ×４ヶ所について、センチュウ数（ベールマン法）を顕微鏡により調査	土壌３０ｇあたり１頭以上検出	即時		岡山県
だいこん	ネグサレセンチュウ類	播種前	生土５０ｇあたりのネグサレセンチュウ類の頭数を調査	生土５０ｇあたり２～３頭	播種前		青森県
だいこん	バーテシリウム黒点病	播種前	土壌採取	中発生以上のほ場および微小菌核密度１０個／ｇ乾土以上のほ場	播種前		北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
てんさい	テンサイモグリハナバエ	１２葉期（道東地域で６月２０日頃）	見歩き調査（最低５０株）	被害株率１００%、さらに食害面積１／４を超える葉が５枚／株（被害葉率４２%）以上	即時		北海道
てんさい	ヨトウガ（第１世代）	幼虫被害発生初期（道央地帯で６月下旬）	見歩き調査、１圃場あたり５０株（１０株×５ヶ所、５日間隔）	被害株率５０％以上	即時		北海道
てんさい	ヨトウガ（第２世代）	幼虫被害発生初期（道央地帯で８月下旬から）	見歩き調査、１圃場あたり５０株（１０株×５ヶ所、５日間隔）	被害株率５０％以上	即時		北海道
てんさい	褐斑病	８月中下旬（発病株率伸長時期）	圃場全体を達観調査	発病株率が５０％に達する前	８月中下旬（発病株率伸長時期）	品種は、褐斑病抵抗性極強に限る。	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
にんじん	キタネコブセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	２～３頭以上	播種前		北海道
にんじん	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	５頭以上	播種前		北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
たまねぎ	ネギアザミウマ	６月上旬から	見取り調査（１０～２０株、５日間隔）	食害程度指数２５（大多数の株にわずかな食害が認められる）・食害程度指数２５に満たない場合は７月１０日	１回目：即時・以降１０日間隔で７月２０日まで	発生対応型防除体系：防除開始期の目安	北海道
たまねぎ	ネギアザミウマ	随時	見取り調査	５０頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
たまねぎ	ネギアザミウマ	４月～５月	見取り調査	５０頭／株以上	即時		山口県
たまねぎ	白斑葉枯病	６月上旬から	見取り調査（生育の良い畦を片道１００株（畦長１２ｍ）往復２００株調査）	明瞭な病斑の出現	１回目：初発確認後直ちに（初発の５日以内）・２回目以降：１５日間隔・散布終了時期：倒伏期の１５日前	発生対応型防除体系：防除開始期の目安	北海道
たまねぎ	べと病	３月	見取り調査	１０ａあたり越冬罹病株３株以上（越冬罹病株率０．０１%以上）	３月下旬～４月上旬	（要防除密度の目安）	兵庫県
たまねぎ	べと病	３月	見取り調査	越年罹病株数が２～３株／１０ａ以上	３月下旬～４月		山口県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
ラッキョウ	ネダニ類	越冬後（３月下旬）	土２００ｇを採取しオニオンパウダートラップ３枚を設置し、３日後の誘引数を調査	３頭／トラップ	生育期（４月中旬～下旬）		福井県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
根深ねぎ	ネギアザミウマ	収穫６０日前	見取り調査	被害葉率５０％以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
根深ねぎ	ネギハモグリバエ	収穫６０日前	見取り調査	被害葉率５０％以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
小豆	ダイズシストセンチュウ	播種前	土壌採取	卵・幼虫数／ｇ乾土が１０～１００	播種前	卵・幼虫数／ｇ乾土が１００以上では寄主作物の作付けを避ける	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
だいず	カメムシ類	８月下旬（圃場侵入期）	見取り調査、圃場あたり１００茎ずつ３ヶ所	０．３頭／１００茎	即時		福井県
だいず	カメムシ類	９月中旬（発生最盛期）	見取り調査、圃場あたり１００茎ずつ３ヶ所	４．０頭／１００茎	即時		福井県
だいず	子実吸汁性カメムシ類	８月下旬（若莢期・カメムシ類の圃場侵入期）	見取り調査	１００株あたり０．３頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
だいず	子実吸汁性カメムシ類	９月中旬（莢伸長後期・カメムシ類の最多発生期）	見取り調査	１００株あたり４頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
だいず	フタスジヒメハムシ	８月下旬（成虫発生最盛期）	払い落とし調査、１．５ｍ×２条の株を３ヶ所以上	約７０頭／１．５ｍ×２条株	即時		福井県
だいず	マメシンクイガ	開花前以降（フェロモントラップ）、開花始め７日後以降（莢長）	フェロモントラップ・莢長調査	成虫の誘殺が開始している・およそ半数の株で莢長が２～３ｃｍに達している	条件を満たしたことを確認後６日後を目処に、１回目散布：合成ピレスロイド剤、１０日後の２回目散布：有機リン剤	防除開始期の目安	北海道
大豆	マメシンクイガ（圃場単位）	６月下旬頃	大豆の連作圃場の有無	地区全体で連作圃場がない場合は防除不要			新潟県
大豆	マメシンクイガ（圃場単位）	８月中～下旬	圃場内に性フェロモントラップ１台を設置、誘殺数	８月１０日頃～２５日の総誘殺数１０頭以上：多発生に対応した防除必要	８月第６半旬～９月第２半旬		新潟県
大豆	マメシンクイガ（圃場単位）	８月中～下旬	圃場内に性フェロモントラップ１台を設置、誘殺数	８月１０日頃～３１日の総誘殺数１５頭以上：防除必要	９月第１～２半旬		新潟県
大豆	マメシンクイガ（圃場単位）	前年の収穫時	－	大豆連作圃場で、前年に被害粒が目立った場合、多発生に対応した防除必要	８月第６半旬～９月第２半旬		新潟県
大豆	ウコンノメイガ	７月第６半旬	葉面積指数の大きな地点を２５茎調査	葉巻数３個以上／茎	８月第１半旬までに防除	平成２４年度岩手県農業研究センター試験研究成果	岩手県
大豆	ウコンノメイガ	８月第１半旬	見取り調査	減収率５％を被害許容水準とした場合：葉巻率１．６％または１本当たり葉巻数１．３個	即時	他の減収率（１０％，１５％，２０％）を被害許容水準として要防除水準を設定することもできる。	宮城県
大豆	ウコンノメイガ	７月６半旬	ほ場全体で４０～６０茎の葉巻数を調査し、茎当たり葉巻数を算出	葉巻数１．３個／茎	７月下旬～８月上旬	茎葉散布剤	秋田県
大豆	ウコンノメイガ（圃場単位）	７月第５半旬、７月第６半旬	平均的な生育の地点４か所、１か所当たり畝１ｍの見取り調査、葉巻数	７月第５半旬の平均葉巻数６個以上、７月第６半旬の平均葉巻数２４個以上防除必要	７月第６半旬～８月第１半旬		新潟県
大豆	ウコンノメイガ	７月６半旬	見取り調査、１圃場あたり４ヶ所・連続５～１０本について調査	葉巻数６個以上／本　（一部開いた葉巻も１葉巻と数える）	即時～８月１半旬		富山県
だいず	食葉性害虫	開花始～	見取り調査	７月上旬：１頭／株・開花期：２頭／株・莢伸長最盛期以降：３～４頭／株	即時		北海道
だいず	ハスモンヨトウ	８月上旬～中旬	圃場内の白変葉ヶ所を見取り調査	白変葉ヶ所数　５ヶ所／ａ	即時		鳥取県
だいず	ハスモンヨトウ	－	見取り調査	白変葉が５ヶ所／１ａ以上	即時		山口県
だいず	べと病	開花始まで	見取り調査（上位葉）	病斑面積率２．５％（病斑数３０個／株）以上	開花２～３週間前に達した場合：即時及びその２～３週間後の２回		北海道
だいず	べと病	開花始まで	見取り調査（上位葉）	病斑面積率２．５％（病斑数３０個／株）以上	開花始に達した場合：開花期の１回		北海道

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

だいず	べと病	開花始まで	見取り調査（上位葉）	病斑面積率２．５％（病斑数３０個／株）以上	開花始までに要防除水準に達しなかった場合：（黄・青白大豆）防除不要、（黒大豆）開花期の１回散布		北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
さやえんどう	ナモグリバエ	定植後	見取り調査（ほ場内３ヶ所程度１０ｍ範囲の株）	成虫の食痕（１５～２０個／上位葉３葉）の茎が主茎２０茎当たり１茎以上	即時	収穫期間の発生対応型防除の目安	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
きゅうり	サツマイモネコブセンチュウ	定植前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	２期幼虫数２頭以上、根こぶ程度４０以上	定植前		北海道
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	４頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
夏秋キュウリ	アブラムシ類	６月上旬～６月下旬	見取り調査、任意	葉当たり１０頭以上の寄生葉率が１０％	即時		福島県
きゅうり	ワタアブラムシ	随時	見取り調査	６頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
かぼちゃ	ワタアブラムシ	７月	中位葉の１葉あたり平均寄生頭数	１５０頭（径２～３ｃｍのコロニーが３個）以上	即時茎葉散布を開始する	効率手防除の開始目安	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
すいか	ハダニ	着果期	見取り調査	寄生葉率３０％または２頭／小葉　以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
すいか	ハダニ	果実肥大期	見取り調査	寄生葉率６４％または１０頭／小葉　以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
すいか	ナミハダニ	果実肥大初期～収穫盛期	上、中、下葉各５葉ずつ雌成虫寄生数を調査する	５．４頭／葉／日	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
トマト	サツマイモネコブセンチュウ	定植前	ベルマン法（土壌２５ｇあたり）	２期幼虫数２頭以上、根こぶ程度４０以上	定植前		北海道
トマト	オンシツコナジラミ	随時	黄色粘着リボンによる捕獲	１日あたり捕獲数３６頭以上	即時	果実のすす病発生開始の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	オンシツコナジラミ	随時	見取り調査	１葉あたり６０頭以上	即時	果実のすす病発生率１０％の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	タバココナジラミ	随時	見取り調査	幼虫数が１葉あたり８０頭以上	即時	被害が生じる密度【果実着色異常】（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	マメハモグリバエ	随時	見取り調査	幼虫３０頭／株以上	即時	１０％減収の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	褐色根腐病	栽培終了後	根の堀取り	根の半分以上が発病している	次作に向けて	土壌還元消毒や抵抗性台木を利用する	北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
なす	ハダニ	随時	見取り調査	施設栽培：５頭／葉、露地栽培：２頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
なす	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	１頭／１０葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
なす（施設）	ミナミキイロアザミウマ	生育期～収穫期	１００葉あたりの成・幼虫数を調査する	８６頭／１００葉	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
なす	モモアカアブラムシ	随時	見取り調査	５０頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
ピーマン	ミカンキイロアザミウマ	随時	黄色粘着トラップ（７．５ｃｍ×１２．５ｃｍ）による誘殺	１０頭／日	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	１頭／１０花	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ピーマン（施設）	ミナミキイロアザミウマ	開花期～収穫期	１００花あたりの成虫数を調査する	１０．５頭／１００花	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	全期間	成虫数、見取り（５０花）	０．１頭／花	即時	数値は被害許容水準	宮崎県
ピーマン	ハスモンヨトウ	随時	見取り調査	３齢幼虫４頭／１０平方メートル	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
チンゲンサイ	コナガ	随時	見取り調査	１頭／１０株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
キャベツ（春まき栽培）	コナガ	定植期以降	フェロモントラップによる誘殺数及び５日間（前４日間を含む）のアメダスの移動平均気温	５日間成虫数３０頭以上且つ移動平均気温１５℃以上が２日以上連続	２日後までに開始		北海道
キャベツ	コナガ	結球前	見取り調査	幼虫数が１株あたり１．３頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
キャベツ	コナガ	生育前期（結球前）	幼虫数を見取り調査する	５．０頭／株	即時	結球率１００％を目標とする場合	和歌山県
キャベツ	コナガ	生育後期（結球期）	幼虫数を見取り調査する	０．７７頭／株	即時	収穫時の秀品率９５％を目標とする場合	和歌山県
キャベツ	食葉性害虫	定植期以降	見取り調査（約１０株、７日間隔）	新食害痕数１個／株以上	即時		北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
ホウレンソウ	ホウレンソウケナガコナダニ	播種前	土５００ｇを採取し乾燥酵母トラップ３枚を設置し、３日後の誘引数を調査	５頭／トラップ	生育期		福井県
ホウレンソウ	ホウレンソウケナガコナダニ	は種前～は種後	トラップ調査（コナダニ見張番を５個以上／ハウス）	１頭以上／ハウス	は種前（土壌消毒）または即時		山口県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
アスパラガス	ネギアザミウマ	発生期	払い落とし、１圃場あたり数ヶ所	１ヶ所あたり成虫１～５頭／１０×２０ｃｍ板上	即時		香川県
アスパラガス	ネギアザミウマ	発生期	払い落とし、１圃場あたり１０ヶ所以上	１ヶ所あたり１頭／１０.５×２２.５ｃｍ板上	即時		長崎県
アスパラガス	斑点病	－	見取り調査	主茎に病斑が散見される程度（発病度１２．５以上）	即時		北海道
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
いちご	ハダニ	随時	見取り調査	寄生小葉率２０％または１頭／小葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
いちご	アザミウマ類	発生期	見取り調査	寄生成虫数が１００花当たりで１０頭または、成虫の寄生花率１０％	即時		香川県
いちご	ミカンキイロアザミウマ	随時	払い落とし	１０頭／３０花房	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.